

臨海受験情報(神奈川県公立高校入試版)

## ペンギン 入試レポート

2018年4月号



## 【2018年度入試はこう実施された！！】

「ペンギン入試レポート4月号(神奈川県公立高校入試版)」では、2018年度神奈川県公立高校入試の結果についてお知らせします。ぜひ、ご一読いただきお役立てください。

高校入試で合格を勝ち取ることができるように、臨海セミナー職員一同、できる限りの応援をさせていただきます。入試に関するご相談などがございましたら、ご遠慮なく、臨海セミナーの各教室までお問い合わせください。

## 1、2018年度入試の選抜結果について

2018年度は、全日制の課程では151校で共通選抜が行われました。全日制募集人員43,043名に対して志願変更締切後の確定志願者数が51,780名、確定志願倍率1.20倍(昨年度1.21倍)、受験者数が51,369名、受験倍率1.19倍(同1.20倍)、合格者数が42,763名、実質倍率1.19倍となりました(同1.20倍)。全体として、昨年度と比べ、大きな倍率の増減は見られませんでした(※表1参照)。

一方、県教育委員会が発表した2018年度の県内私立高校一般入試志願倍率(中間集計)は、1月31日午後3時での平均倍率5.29倍となりました(※表2参照)。神奈川県私立高校一般入試志願倍率は、2012年度は3.70倍でしたが、2013年度以降は5倍近くで推移しています。これは、2013年度の公立高校入試改革で、それまで2回あった入試が一化されたことで、「必ず滑り止めの私立高校を併願しよう」という受験生の意識が高まったためと思われます。

表1 2018年度共通選抜実施状況

年度	募集人員	願書受付 締切時 志願者数	志願変更 締切時 志願者数	確定志願 倍率	受験者数	受験倍率	受験後 取消者数	合格者数	実質倍率
18年度	43,043	51,793	51,780	1.20	51,369	1.19	379	42,763	1.19
17年度	43,593	52,912	52,892	1.21	52,321	1.20	292	43,476	1.20
16年度	43,750	53,284	53,277	1.22	52,638	1.20	310	43,609	1.20

表2 神奈川県私立高校一般入試志願倍率(中間集計)

18年度	17年度	16年度	15年度	14年度	13年度	12年度	11年度	10年度	09年度
5.29倍	5.36倍	5.50倍	5.32倍	4.88倍	4.94倍	3.70倍	2.82倍	3.54倍	3.45倍

## 2、選抜方法について

共通選抜に使われる資料は、第1次選考では①調査書の評定、②学力検査の得点、③面接の得点、④特色検査の得点(一部の学校)、第2次選考では①学力検査の得点、②面接の得点、③特色検査の得点(一部の学校)となります。各高校は、これらの資料の得点に各校で定めた比率をかけて合計した数値Sを求め、その値の高い順に合格者を出します。第1次選考では募集人員の90%までを、第2次選考では募集人員の10%を選考します。

表3は、2018年度共通選抜での各比率の採択状況を示しています。第1次選考では4:4:2、つまり調査書の評定と学力検査を同等に重視する比率を採択した学校が最も多く、次いで3:5:2、5:3:2となりました。第2次選考で最も多く採択された比率は8:2、次いで7:3であり、多くの学校・学科で学力検査を重視する傾向が見られました。

表3 2018年度共通選抜各資料の比率

学力検査 重視	第1次選考の比率 (評定:学力検査:面接)		学力検査 重視	第2次選考の比率 (学力検査:面接)	
	比率	学校数/学科数		比率	学校数/学科数
↑ ↓ 評定・ 面接重視	2:6:2	1校 1学科	↑ ↓ 面接重視	8:2	93校 108学科
	3:5:2	32校 33学科		7:3	35校 47学科
	4:4:2	82校 102学科		6:4	17校 27学科
	3:4:3	1校 1学科		5:5	2校 4学科
	5:3:2	32校 2学科		4:6	3校 3学科
	4:3:3	3校 3学科		2:8	2校 4学科
	3:3:4	1校 1学科			

表4は、2018年度入試で調査書の評定または学力検査を重点化した学校数を示しています。重点化とは、選抜において特定の教科を重視するために、調査書の評定や学力検査の得点に一定の範囲で比重をかけて計算することをさします。国際科や外国語コースで、英語の評定や英語の入試得点を2倍し、英語の得意な受験生の総合成績を高くするなどがそれにあたります。2018年度入試では、調査書の評定のみを重点化した学校が最も多くみられました。

表4 重点化を行った学校

第1次選考	評定・学力検査	8校 8学科
	評定のみ	34校 44学科
	学力検査のみ	5校 6学科
第2次選考	学力検査	14校 14学科

## 3、学力検査について

2018年度入試共通選抜の合格者の教科別平均点は表5の通りです。英語を除く全教科で合格者平均点が下がり、設問が難化したことが窺えます。

表5 共通選抜(全日制の課程)合格者の教科別平均点 (満点は100点)

年度	英語	国語	数学	理科	社会
2018年度	56.1	65.6	56.0	45.3	41.8
2017年度	51.9	73.1	63.5	46.9	54.5
2016年度	43.0	64.7	51.7	46.5	52.0

## 【2018年度入試の出題傾向と今後の対策】

### 英語

英文や資料を速く正確に理解する練習、必要な情報を整理して表現する練習、単語や文法事項の学習の3点に力を入れる必要があります。入試では、選択肢や資料などを含め多量の英文をすばやく正確に読むことが求められます。短い文章からでも構わないので、継続的に英文を読む習慣をつけましょう。英作文問題に関しては、文法の基礎を固めておく必要があります。英作文といっても、教科書の内容が身につけていれば十分に対応できるものばかりです。また、英文を速く読み正確に表現するには、単語の意味や綴りはもちろん、文法の知識が不可欠です。日頃から単語や文法の学習を怠らないようにし、英作文の問題にも積極的に取り組みましょう。

### 数学

選択式の解答の出題は増えたものの、受験生の思考力・判断力を試す難度の高い出題は今後も続いていくと思います。基本的な技能と知識を身につけたら、入試問題を利用してその知識・技能を活用する練習が必要です。神奈川県は公立高校入試過去問だけでなく、他の都道府県の公立高校入試問題にもチャレンジして出題傾向・形式の変化に対応できる力も磨く必要があります。とくに、関数と図形の融合問題など、複数の単元の知識・技能を利用する問題は十分な練習が必要です。定期試験の勉強でも入試を見据えて、深い知識や技能を習得することや、早めに入試対策をスタートすることが入試攻略のカギとなるでしょう。

### 国語

まずは小中学校で学んだ漢字を熟語や文の形で練習しましょう。また、語の識別をはじめとした、文法事項の復習も行うとよいでしょう。小説文では登場人物とその心情の変化などに注意して読む練習、論説文では要旨や段落構成をつかむ練習が必要です。古文については「誰が何をしたのか」を把握しながら読む練習をしましょう。主語が省略されている場合は、自分で補いながら読む必要があります。記号選択問題は、昨年マークシート方式が導入され、入試での配点の大部分を占めています。問題演習を数多く行うことが得点力アップにつながります。資料の読み取りは、文章の内容を理解し、グラフなどの資料から情報を読み取った上で、それを説明する力が必要です。その練習と併せて、記述力を養うために、根拠や考えを一定の長さの文で記述する練習や、自分の考えや文章の要旨をまとめる練習も行いましょう。

### 理科

覚えた知識を利用する、与えられた条件や情報を整理する、図に表して考えるといった出題は続いています。問題を解くために必要な知識は基本的な内容であっても、どのように考え、どのように解き進めるかが十分に問われていますから、単なる暗記ではなく、知識や公式の使い方、原理原則に基づく考え方を身につける必要があります。導き出した解答を深く吟味しなくてはならない設問もあります。入試に向けた問題練習後には、たとえ正解であっても解答解説を十分に読み、自分の考え方が原理原則にあっているか確かめることでより力を伸ばしていくことができます。テキストやワークは問題練習だけではなく、解法確認にも十分活用しましょう。

### 社会

基礎的な知識を問う出題のほか、キリスト教の宗派、野菜の出荷時期、時代・年代の並べ替えなど、より深く細かい理解や知識が必要な問題も目立ちます。教科書の重要語句の内容だけではなく、地図やグラフ、図表などの資料などととも、より細かい内容まで身につけるように学習しましょう。

出題傾向や解答形式の変化なども見られましたが、神奈川県は過去の入試問題を解くことが最も効果的な対策です。あわせて他の都道府県の入試問題も解き、さまざまな出題形式に慣れておくことが高得点につながります。

## 4、面接について

面接は全校とも個人面接で、2人以上の教員で行い、時間は受験者1人あたり10分程度です。面接の評価観点には「共通の観点」と「学校ごとの観点」があり、「共通の観点」は①中学校での教科等への学習意欲、②それ以外の活動への意欲、③志望動機を問うもので、全校で質問されます。「学校ごとの観点」は、高校入学後の教科や活動への意欲や将来の展望など、学校ごとに設定した観点で質問されます。学科別に傾向を見ると、「高校での教科・教科以外への意欲」、「面接の態度」は多くの学校で評価されていますが、「学校の特色理解」は単位制の高校、「将来の展望」は専門学科で質問される傾向にあるようです。「その他」の質問項目には、「受験生の長所・特性」、「専門学科の学習内容に対する興味・関心・意欲」、「コミュニケーションに対する意欲」などがありました。

## 5、特色検査について

特色検査には、大きく分けて「自己表現検査」と「実技検査」があります。2018年度入試では、表6の学校が特色検査を行いました。

表6 特色検査実施状況 (※クリエイティブスクールを除く)

特色検査の種類		主な実施校・学科・コース
自己表現検査	記述型	横浜翠嵐 市立横浜サイエンスフロンティア 希望ヶ丘 柏陽 横浜緑ヶ丘 横須賀 湘南 平塚江南 厚木
	スピーチ型	光陵
	討論型	神奈川総合(国際文化コース)
実技検査	デッサン	白山(美術科) 上矢部(美術科) 市立川崎総合科学(デザイン科) 弥栄(美術科)
	楽器演奏・独唱※1	市立戸塚(音楽コース) 弥栄(音楽科)
	選択競技の試技※2	市立横浜商業(スポーツマネジメント科) 市立橘(スポーツ科) 厚木北(スポーツ科学科) 弥栄(スポーツ科学科)
	口頭による英問英答	横浜国際

※1 独唱は弥栄のみ ※2 市立橘、厚木北は共通種目もあり

## 6、2019年度入試に向けて

2019年度入試に向け、臨海セミナーでは入試情報センターを中心に、今年の入試結果と入試問題の分析を行ったうえで、受験生一人一人の状況、志望校に合わせた学習指導・進路指導をまいります。今後も臨海セミナーの学習指導・進路指導にご期待ください。